

社会に開かれた活力ある学校づくりのための教育課程の工夫 ～探究的・協働的な児童生徒の育成をめざして～

提言者：山梨県 山梨県公立小中学校教頭会 山梨市立岩手小学校 猪股 研

1 主題設定の趣旨

近年の教育をめぐる情勢において、情報化の加速、グローバル化の進展、少子化や核家族化の進行等、急激な社会の変化により、子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題はより複雑化・多様化している。特に、子供たちの成長過程における、多様な人との関わりや社会体験、生活経験の不足、規範意識の低下などの問題が顕在化してきている。そのため、子供たちや学校の抱える課題の解決、未来を担う子供たちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠であるといえる。

学習指導要領の前文では、基本方針理念が社会で広く共有されることを目指し、3つの事項を示しており、その一つとして「社会に開かれた教育課程の実現」を掲げている。教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには「よりよい教育を通してよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、学校においては、「どのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのか」を教育課程において明確にしていくことが重要となる。

山梨市では、市内全小中学校において「学校運営協議会制度」を導入し「コミュニティ・スクール（CS）〈以下CS〉」の取組を始めている。また一昨年度より「社会に開かれた教育課程の実現」に向けた理念として、市教育委員会が提唱し、各校で具現化する地域連携学習「山梨市ECHOES（エコーズ）学習」（以下ECHOES）を市内全小中学校の教育課程に位置付け、市内にある素材・人材・フィールドを活用した教科横断的・総合的な学習の時間を各校の実情に応じ展開している。また昨年度から、ECHOESの一環として、「山梨市教育ファーム」が開始され、学

校内や近くに圃場を設け、地域の農業体験協力者(管理人)に協力を依頼し農業体験を行っている。

山梨市教頭会では、これまで、教頭として組織づくりに携わりながら研究・実践を進めてきたCSの取組と昨年度より始まったECHOESの取組を効果的に融合し、地域社会との連携・協働を、さらに進展させていくための教育課程の構築を市内の小中学校間での協力体制のもと進めていきたいと考えた。

そこで、一昨年度から3年間の本会の新たな課題別研究のテーマを「社会に開かれた活力ある学校づくりのための教育課程の工夫～探究的・協働的な児童生徒の育成をめざして～」と設定し、以下のように研究を進めていくこととした。

2 研究のねらい

CSの取組とECHOESの取組を効果的に融合させた教育課程について、市内各小中学校間の協力体制を組みながら社会に開かれた活力ある学校づくりのための教育課程を編成していくために、次の3点を主な内容として、3年間の研究を進めてきた。

- ① 地域素材・人材・フィールドを活かした地域連携学習の編成
- ② 市教育委員会と連携した中での各校特色のある教育課程の編成と実施
- ③ 学校運営協議会（CS）等と連携した地域とともにある学校づくり

3 研究の経過

1年次（令和5年度）

- ① 研究の方向性の確認、研究テーマの設定、研究内容の検討
- ② ECHOESの各校で実施
- ③ ECHOESの実施内容の検証

2年次（令和6年度）

- ① ECHOES の取組の改善
- ② 学校運営協議会（CS）等の取組と連携した活動の構築
- ③ 学校間の取組に関する情報共有（取組事例の収集）

3年次（本年度）

- ① 取組内容を工夫・改善した ECHOES の実施と検証
- ② 研究のまとめ（取組の成果、今後の課題に関するまとめ 等）

4 研究の概要

① ECHOES について

令和5年度より市内各小中学校の教育課程に教科横断的・総合的な学習の時間として組み込むことで導入を図っている市教育委員会が理念を提唱し、各校で具現化する取組である。

ECHOES の「E」は「Experience（体験・経験）」、「C」は「Community（地域社会）」、「H」は「Hometown（ふるさと）」、「O」は「Originality（独創性）」、「E」は「Enjoyable（楽しく）」、「S」は「Sustainable（持続可能な）」を表し、市内各小中学校において「市内にある素材・人材・フィールドを活用した教科横断的・総合的な学習を通し、学ぶことの楽しさを味わうとともに、互いの考えや思いに共鳴し合い、共感し合える児童生徒の育成を図る」ことを目的として展開していく学習である。

これを市内各校の教育課程の中に位置付け、目的達成のために取り組み、地域素材や人材等を活かし、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて研究を進めている。

令和6年度からは ECHOES の一環として、農業の魅力や食の大切さなどを理解してもらうことを目的とし、市内全11校に児童生徒が農業体験学習をするための「山梨市教育ファーム」を設けた。学校内や近くに圃場を設け、野菜や果物、米などの苗植えや水やりなどの手入れや収穫などを地

域の農業体験協力者（管理人）の指導のもとに行っている。各校の管理人は学校運営協議会委員自身が担ったり、委員に農家などを紹介してもらったりして見つけている。

② 学校運営協議会（CS）について

学校運営協議会は保護者や地域住民の意見を学校運営に反映し、地域とともにある学校づくりを実現するための仕組みである。

子供たちの「生きる力」を育むためには、教職員のみならず、保護者や地域住民等の適切な支援を得ながら、学校運営の改善を図っていく必要がある。このため、学校と地域の組織的・継続的な連携を可能とする協議会について、設置の促進と更なる活動の充実が図られた。

今日の学校を取り巻く課題に適切に対応するためには、保護者や地域住民等とのさらなる連携・協働体制を構築し、その協力を得ることが不可欠である。そして、それらの協力・支援活動が適切に行われるためには、その活動を担う保護者や地域住民等が、当該学校の校長の学校運営のビジョンや運営の現状、児童生徒が抱える課題等を的確に把握することが重要である。

<市内各小中学校の『ECHOES』の取組(抜粋)>

■加納岩小学校

第3学年 総合的な学習の時間

「モモ博士になろう」

○ねらい

モモ作りの作業の一部を体験したり、体験の中で疑問に思ったことを調べたりして、地域の特色である果樹栽培について興味をもち、農業の大切さについて理解を深める。

○内容

- ・山梨のモモ作りの歴史について学ぶ
- ・昔と今の作業の違い（手作業、機械化）を学ぶ
- ・摘果作業、袋かけ作業体験 ・収穫体験
- ・モモ作りについて調べてまとめる。

■日下部小学校

第2学年 生活科

「めざせ野さい作り名人」

○ねらい

野菜を育てる活動を通して、それらの変化や成長の様子に関心を持ち、適切な世話の仕方、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、植物への親しみを持ち、大切にすることができる。

○内容

農業体験協力者（管理人）をはじめ、地域の方々の指導のもと、きゅうりや枝豆、サツマイモなどの野菜作りを行っている。子供たちは水やり、草取りなどを通して、働くことや食べ物大切さとともに収穫の喜びなどを感じている。また、様々な作業を通して、地域の方々との交流を深めている。

■後屋敷小学校

第5学年 総合的な学習の時間

「稲作体験学習」

○ねらい

農業の大切さを考えると共に、自然との関わりや農家の人の苦勞を知り、食について見直しよりよく生きていこうとする態度を養う。

○内容

- ・田植え ・生育観察 ・稲刈り
- ・脱穀（見学） ・試食会

■日川小学校

第6学年 総合的な学習の時間

「受け継いでいこう にっかわ 日川の歴史」

○ねらい

地区に伝わる「大川倉横結操法」が生まれた背景を知り、地域の歴史や、それを受け継いでいこうと尽力する人々の思いを理解する。

○内容

地域の方を招いて、水害に苦しんだ地域の歴史を学ぶ。また、大川倉横結操法を教わることにより、伝統が受け継がれていることを知ったり、自分たちも下級生に継承したりする。

■山梨小学校

第3学年 総合的な学習の時間

「ぶどう たんけん隊」

第4学年 総合的な学習の時間

「野菜を作ろう」

○ねらい

農作業体験等の活動を通して、ぶどう栽培についての理解を深め、地域への愛着を持つ。

農作業体験等の活動、特にサツマイモの栽培を通して、植え付けから収穫までの一連の工程が身近で取り組みやすいことから、先人の工夫やその文化について知る。

○内容

農家の仕事やぶどうの栽培活動を知り、ぶどうの生育や農業機械について学習する。農業体験や試食をし、新聞にまとめ、交流をする。

サツマイモの栽培の歴史や品種改良に触れ、郷土学習や栽培技術の進歩を学び、給食に提供するなど食育の一環としていく。

■八幡小学校

第2学年 生活科

「めざせ 野さい作り名人」

○ねらい

野菜などの植物を育てる活動を通して、植物の生命や成長に気付くとともに、植物に親しみを持ち、大切にできる心や態度を育てる。

○内容

- ・育てたい野菜を決め、育て方を調べる。
- ・地域農家の農業体験協力者に指導やサポートをしてもらいながら、実際に育てる。
- ・野菜作りを通して、その成長や変化、収穫の喜び、自分の成長などについて伝え合う。

■岩手小学校

第1学年 生活科

第3～6学年 総合的な学習の時間

「農業体験学習(野菜・稲・ブドウ栽培体験)」

○ねらい

農業体験を通して、地域の特産物についての理解を深めるとともに勤勞を重んじる態度や生命および自然を大切にできる心や態度を育てる。地域の方とふれあう活動を通して、地域に愛着を持つとともに、思いやりや助け合いの心を育てる。

○内容

野菜栽培、稲作・ブドウ栽培体験を地域の方から指導していただく。成長の様子を観察しまとめ、世話や収穫を通して働くことの心地よさや大切さを学ぶと共に、郷土愛を育む。

■笛川小学校

第5学年 総合的な学習の時間

「農業体験学習(米作り)」

○ねらい

学区内にある水田の一部を借りて、自分達で稲を育てる経験を通して、農業の魅力や食の大切さを実感するとともに、日本の食糧生産について考える機会とする。

○内容

- ・外部講師による米作りの講話
- ・田植え、生育観察、稲刈り
- ・調理実習（おにぎり・カレーライス作り）

■山梨南中学校

全学年 総合的な学習の時間

「地域学習（キャリア教育）・農業体験」

○ねらい

地域の魅力を知り、地域に見守られながら生活する自分を見つめる。

○内容

コミュニティサポーターの協力のもと、サツマイモ栽培とチューリップ花壇の管理に取り組んでいる。サツマイモの成長や収穫の喜びを実感させ、チューリップは1000本の球根を植えて満開の花の美しさをする。

■山梨北中学校

第1学年 総合的な学習の時間

「地域を知る・地域に学ぶ」

○ねらい

市内にある素材・人材・フィールドを活用して、学ぶことの楽しさを味わうとともに、互いの考えに共鳴し合い、共感し合える生徒の育成。

○内容

- ・さつまいもの育成 ・やきいも
- ・さつまいもを使用した料理実習

■笛川中学校

第1・2学年 総合的な学習の時間

「世界農業遺産について学ぶ」

○ねらい

世界農業遺産に認定された峡東地域の果樹農業システムへの関心を高め、地域産業について理解を深めるとともに、地域産業への関わり方について考える機会とする。

○内容

- ・峡東地域世界農業遺産推進協議会と連携し、協会アドバイザーによる講話を聴く。

- ・農家への取材や文献の調査を行う。
- ・峡東地域の果樹栽培や生物多様性、景観など、世界農業遺産に関係するテーマの記事を作成し、同協議会主催コンクールへの応募により情報発信する。

5 研究の成果と今後の課題

① 成果

- ・CS、ECHOES 各校の現状の把握と成果と課題の共有

ECHOES では、昨年度は2年目の取組であった。各校で教育課程に位置付け、実施をすることができた。また、各校の現状、成果や課題を共有することで、今後の各校での教育課程の改善に向けて大変参考となった。成果があった取組は各校で実践を行うなどしている。

CSについても、数年前から市教育委員会主催で、各校の校長、教頭、運営協議会の会長、副会長が参集し、学校運営協議会研修会を実施している。昨年度は、ECHOESの実施の中で見えてきた課題と、学校運営協議会を活用した課題解決の事例や共有したい方策について議論を行った。効果的な取組や成果があった取組については各校の教育課程編成の参考にしている。

またCS、ECHOESの成果だけでなく課題点についても、再検討し、それを各校で共有し、さらに改善していくことで、各校の教育課程の編成などに生かしていきたい。

② 課題

- ・教育課程への位置づけと人材等の確保

保護者や地域と連携した活動を仕組んでいくには、教育課程へ適切に配置することや、各活動を地域にフィードバックをすることでともに進めていくことが重要である。

また、新たな魅力ある人材・素材・フィールド等の発掘、さらなる協力体制・持続可能な活動の構築についても、学校運営協議会を核として、地域の方とも連携をしていく必要がある。持続可能な「地域とともにある学校づくり」を実現できるよう、ECHOESとCSを効果的に活用していきたい。